

年にはナポレオンが巴里に運び去つたが一八一五年にヴェニスに返還された、と云ふ箔附きの馬である。堂内のモザイクの大規模なることは只驚くばかりであり四萬五千七百九十平方呎を蔽うてゐると聞いて益驚く。

新著紹介

○石川縣の地誌

齋藤外二著 菊判百六拾頁 昭和七年十二月 金澤市宇都宮書店發行 定價九十五錢

近來地理學界の風潮に乗つて漸く刊行盛となつた地誌の少なからぬ中に斷然自眉の一として光る本書を紹介したい。著者は多年師範學校に於て郷土の地理研究に努力した篤學の士でその集積した材料を巧みに綴られた。地誌編纂の態度にも色々あり、クレプスのオストアルペンの如き高踏的と云ひたいものより多くの案内記的のものや、又餘りにも地人相關の理法と言ふ流行語にまどはされて地誌本來の目的を忘れたものなどあるが、本書は大體に於て中庸を得てゐる讀者は著者に石川縣内を案内されて隨所で地理學的説明を受けるであらう。教授者は安心と自信とを持つて石川縣の地理を語るべく、學者は多くの資料を攝取し得るであらう。若し此種の地誌が全國的に出たならば如何に好都合かと思はれる。例へば某通俗

地理書に能登上布が晒されるのは邑知渴地溝の斷層線の湧泉としてあるが、荷馬車にて能登部より上野に運ばれ、海水が漸く浸る程度の安山岩よりなる岩卓の窪地を利用する約十米四方の岩塊と礫とで區劃された「間」の中に布を延して三日間位浸す」と言ふ記事さへ知れば、上記の誤はしなかつたであらうと思はれる。同様な事はまだ種々あるが省略する。景觀はかなり注意して書いてあり、砂丘地帯や半島等は頗る面白いが、未だ如實に彷彿たらしめるどんな所と言ふ點に多少の遺憾を感じる。例へば七尾灣の奥深い入江の石垣風景などは強調されてもよし、石川・江沼平野から見る白山が越中から見る立山と違ふ氣分のする事なども地誌に書いて悪いことではあるまい。圖は百五十六に達するが縮尺を豫想せぬ原因が多

くの圖に致命傷的結果を與へてゐる。誤植は少いがそれでも大切なものに誤がある。然し難讀の地名に振假名ある事は讀者に頗る便利である。兎も角も城下町・季節の聚落・溪口聚落・砂丘・扇狀地・丘陵・高山・地溝・出稼ぎ・製鹽業其の他種々の地理的興味深き地方に纏つた地誌を獲た事に就いて感謝せねばならない。巻頭には石川縣の地理的トピックスを強調された田中啓衛氏と郷土教育と地誌の結合を述べた檜崎視學官の序文があり、巻尾に文獻と短い統計表が載せてある。その中で明治十二年の人口統計は珍しい。加賀の士族は五二六六〇人となつてゐる。(尾山生)

○歐洲の暴風地帯を往く

アレキサンダー・ボウエル

原著 竹林熊彦譯 四六版 本文二八四頁 附錄七八頁
七年十月發行 章華社 定價一圓七拾錢

米國の外交官たる原著者のThunder over Europeの九州
帝大司書官の麗筆を以て譯されたもの。先づ獨逸の現狀より
書起し獨佛關係を一瞥し畢竟佛蘭西の持つ恐怖心は神經衰弱
として「西部戰線に異狀なし暗雲は東部國境にある」と結び
波蘭よりバルカン半島・ロシア方面の興味深き國際關係を論
述してゐる。波蘭廊下を述べては、波蘭がダンチツヒを距る
十一哩のグデニアに大規模な築港を爲し、その高き出生率
と低い生活程度が東歐の獨逸人をして波蘭人に交代せしめつ
ゝある現狀を紹介し、更に上部シレジャ・リスマニヤ・東ガリ
シヤ等に於ける波蘭の活動を以て「征服地が海外でなく隣國
を犠牲として國境を擴張する帝國主義國家」と斷じてゐる。
次に南に移つてバルカンの小協商と洪牙利・アルバニヤ・勃牙
利等の對立を述べこれには又夫々現下の國際問題の一大焦點
たる伊佛の對立が背景となつてゐる。而してアルバニヤと伊
太利とはニカラグアと合衆國の關係と同じとし、アルバニヤ
とユーゴスラブ間を以て危機一髪の間としてゐる。附録は
マクレイの「小協商の史的展望」の譯で、崩壊せる境洪國後に
簇生した諸國間に存する小協商の起源・目的・活動を叙述し、
チエツコ・ユーゴスラブ・羅馬尼(或は波蘭)等の佛の勢力を
背景とする團結がマジヤール人・ハプスブルグ家・獨逸合併
論等に對する態度を興深く讀む事が出来る。全體として近時

物情騷然たる東歐・南歐の國際關係を明快に論斷したもので
此の方面の政治地理に關心を懷く者に甚だ都合よき參考書で
あらう。(尾山生)

雜 報

○バクー石油の現在

バクーはアゼルバイジャン共和國
の首府たると共に裏海隨一の要港にして、其地方の地下は悉
く石油であるといはれる。この市の基礎的住民は回教を奉ず
るチエーロツクに屬し、革命前二十五萬に過ぎざりしに今日
では人口六十五萬となりソウイェト第四位の大都市である、
古來土人は井戸を掘り石油を採取して之を利用してゐたが、
今日では同地で石油關係の従事労働者約六萬人に達し一晝夜
三萬五千噸の原油を産出しつゝあるのである。

石油地は南北の兩區に分れ、南は元ビビエーバツトと稱へ
たる所なるが、現在はスターリン區と稱しバクーの南方海岸
數キロの地にあり、此區はバクー市の北方十數キロの地にあ
りて、面積廣大、新しくレーニノスラー・ハーヌイ區といふ、
こゝがバクー油田の主眼で井塔林立壯觀を極め、就中スラー
ーハーヌイでは大なる一部落の民家を悉く他に移住せしめ、
その屋敷跡は無數のボーリングをやつてゐる、しかもこの地
から三〇%の産出あり、原油のまゝパイプ輸送にて黒海のパ
ツームに送られる。